

こどもが まんなか

いわてのWAっこ



いわて幼児教育センター通信
No.9 令和6年3月18日発行

発行・編集

岩手県教育委員会事務局学校教育室
(いわて幼児教育センター)

本通信は岩手県 HP からダウンロード
できます

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html>

キラキラ☆いわてっ子～協同して取り組む活動の中で、自己の力を発揮する～

“もうすぐ卒園、もうすぐ小学校！”就学が近づくこの時期の年長児は、これまでの体験をとおして培った力を発揮しながら協同して行う活動に取り組みます。その過程では、イメージや目的を共有し、工夫し合ったり、友達の思いを受け入れたりして活動を展開していく姿があります。年長児の成長の姿を事例から紹介します。



みんなで考えた
計画書を横に置
いて製作中。だれ
が何を作るのか
わかるように名前
を書いて分担。



【年長児・カレンダー製作】

「もうすぐ小学校に行くから、ぼくたちいなくなるからカレンダーを作ってるんだよ！」自分たちのこれからのこと、園での大切な役割のことをしっかり意識したことばでした。グループごとに月別のカレンダー作りに取り組んでいて、誰が何を作るのか、どんな材料で作るのかなど、みんなで考えた計画書が横に置いてありました。作るものの所に名前が書いてあり、字を書くのが得意な子が友だちの名前を書いたとのこと。

一人ひとりの思いをすり合わせつつ、それぞれの力を発揮し、役割分担をしながら取り組む姿には、目的に向かって最後までやりとおそうとする真剣さがありました。一つひとつの過程を大事に進めていくことが、意欲につながり、素敵な作品が生まれるのだと感じました。

一枚一枚の作品を「いいね」と見入っていた先生方、そのことばと笑顔からは、子どもたちが成長したことへの喜びが伝わってきて、感慨深いものがありました。



一つの作品ができあがり、
のりづけを2人で半分づつ
しています。一緒に完成させ
たい思い、仲間意識等、
協同性を発揮して作業をし
ています。



❀ 昨年の年長児が作ったカレンダー ❀

(3) 協同性 友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(前略)教師は、幼児たちの願いや考えを受け止め、共通の目的の実現のために必要なことや、困難が生じそうな状況などを想定しつつ、幼児同士で試行錯誤しながらも一緒に実現に向かおうとする過程を丁寧に捉え、一人一人の自己発揮や友達との関りの状況に応じて、適時に援助することが求められる。(後略)

— 3 要領・指針「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」より (幼 p58～・こ p54～・保 p68～) —



ルールを守ってみんなと一緒に楽しく遊ぼう！



～ドキドキ感とワクワク感を味わおう～

ルールのある遊びの経験は、子どもたちに協同性を育みます。しかし、ただやればい
いわけではなく、子どもの成長に合わせて、保育者が内容と環境等を考えることが大切
です。子どもが楽しめる遊びを計画することは、楽しさも心配もあります。それは子ど
もたちも同じです。子どもたちは、最初は難しいかなとドキドキしていても、やってみ
て楽しさを味わうことで、もっとやりたい！というワクワク感を味わいます。“ルールを
守ると友達との遊びが楽しくなる”（3要領・指針「領域 人間関係」幼p179・こp249・
保215）等、遊びの中で学んでいきます。

子どもたちが繰り返しやりたくなるような工夫も、保育者の大切な役割です。

【色めくりゲーム（3歳児）】

1対1の対戦、たくさんめくった方が勝ちというルールの下、丸い色カードは先生のアイデアで、むらさき→ぶどう、白→カルピスと呼ぶことにし、子どもたちの関心を一層高めていました。

まるく座って、友達の対戦をじーっと見えています。少しずつルールがわかってきて、自分もやりたいという思いも高まります。友達に応援もしています。自分の番は必ず来るという安心感から順番を待つこともできるようになります。

そして、対戦後は色カードの枚数を保育者と数えながら、どっちが勝ちなのか真剣に見守っていました。何度もやりたくなる遊びが一つ増えました。

今回のテーマは、主に(1)(2)(3)(4)(8)の育ちにつながっていきます。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(1)健康な心と体
(2)自立心
(3)協同性
(4)道徳性・規範意識の芽生え
(5)社会生活との関わり
(6)思考力の芽生え
(7)自然との関わり・生命尊重
(8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
(9)言葉による伝え合い
(10)豊かな感性と表現

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、5歳児に突然見られるようになるものではないため、5歳児だけでなく、3歳児、4歳児の時期から、幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意する必要があります。3要領・指針（幼p52・こp50・保p62）

カードが並んでワクワク！



がんばれ！がんばれ！

どっちの勝ちかな？ドキドキ！

□□□「保育記録について」□□□



ワンポイントアドバイス

訪問支援のアンケートにおいて、先生方が多く挙げた課題として、「保育記録」がありました。保育者にとって、多忙な日々の中、日・週・月・年の単位での記録等を行う際に、子どもの姿をどう捉えるか、捉えたことを次に生かすための手立てはどうあればよいか、迷いは生じます。

記録がなぜ必要なのか、日々考えながら取り組んでいることと思いますが、子ども理解を深めるため、自分の保育を振り返り、自分の保育観を見直すためのものであるということ、また、保育者間で子ども理解を共有するためのツールであるということ意識して行うことが大切です。

指導と評価に生かす記録（文部科学省 令和3年10月）p18 参照

（前略）教師の目の前に現われる幼児の姿は、教師との関わりの下に現れている姿である以上、教師は幼児だけでなく、考えていたことや、関わり方などについても記録する必要があります。記録は、保育の評価を行う際に、実際の活動の場面を設定したねらいや内容を基に分析して、次の指導計画作成の際のねらいや内容の設定に生かしていくための根拠となります。（後略）